そなえあれば
うれいなし

# 西 淀 防災Times

令和6年8月29日 作成者：安東

本校では令和4年度より、教職員の防災意識を高めることを目的として、夏季休業日に防災研修を実施しています。今年度は、8月1日（木）に西区にある【津波・高潮ステーション】へ行き、19名の教職員が研修に参加しました。

今回の『西淀防災 Times』では、津波・高潮ステーションで学んだことをお伝えします！

※今回もみなさんにお伝えしたいことが多く、ボリュームがありますが、どれも大切なことなので、じっくりと確認していただけたら幸いです。

## 津波・高潮ステーション

住　　所 ：大阪市西区江之子島 2-1-64

入 館 料 ：無料

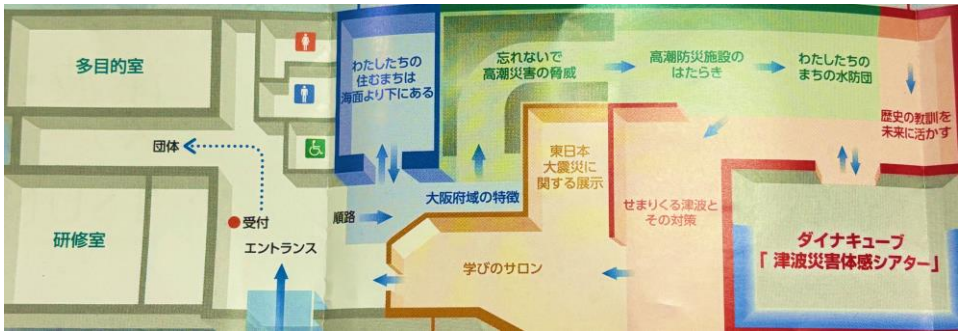
開館時間 ：10時から16時

休 館 日 ：毎週火曜日、土曜日

## 津波・高潮ステーションは、どんな施設？

津波・高潮ステーションとは、大阪府西大阪治水事務所が所管する防潮堤や水門の津波・高潮防ぎょ施設の一元管理を行う「防災棟」と、大阪府民の防災意識の向上を目的とした「展示棟」を併せ持つ施設です。

また、「展示棟」には、かつて大阪を襲った台風による高潮だけではなく、近い将来必ず大阪を襲うといわれている南海トラフ巨大地震と津波についての正しい知識を習得するとともに、地震や津波発生時の対応などを学ぶことができます。




↑ 館内案内図（パンフレットより）

## 津波と高潮の違い

はじめに、研修室で津波・高潮に関するガイダンス映像を見ました。大阪平野がどのようにできたのか、津波や高潮のメカニズムについて映像にて紹介がありました。以下に、津波と高潮の違いについてまとめました。

| 津波 | 高潮 |
|---|---|
| ・地震による急激な地形の変化で、海底から海面までの海水が一斉に動いて沿岸に押し寄せること。<br>・いつ、どのタイミングで起こるか予測できない。 | ・台風等による強風や気圧低下により、短時間で急激に海面が上昇する現象のこと。<br>・台風が接近する時間、潮位が上がる時間を予測できるので、事前に防潮扉を閉めるなどの対策が可能。 |

ガイダンス映像を見た後は、2つのグループに分かれて丁寧なガイドを受けながら各施設の見学をしました。

## 海抜0メートル地帯　＜わたしたちの住むまちは海面より下にある＞

海抜0メートル地帯とは、地表の高さが満潮時の平均水面よりも低い土地のことをいいます。大阪府には、約40㎢の海抜0メートル地帯があり、昭和初期から工業用水として大量の地下水を汲み上げたことで地盤沈下が起こってしまったことが原因と考えられています。**本校が位置する西淀川区は海抜0メートル地帯に含まれており、西淀川支援学校付近は、海抜0メートルよりも低い－0.8メートル**となっています。施設の中には、床面を海面に見立てた展示があり、地域によっては海水が流れ込んでしまうと建物の1階が完全に浸水してしまう恐ろしさが分かりました。

## 南海トラフ巨大地震

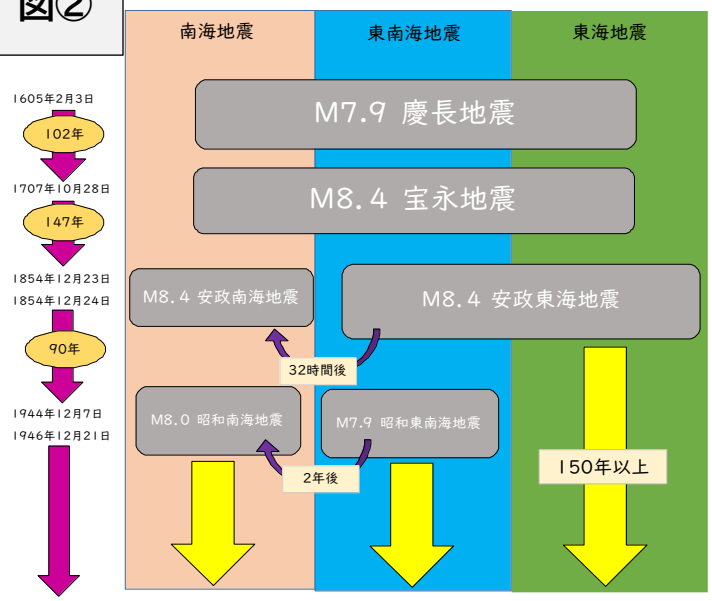
地震はプレートの沈み込みによって生じるゆがみが限界に達すると、地盤が急にずれることで発生します。南海トラフの想定震源地は3か所あり、そこで発生する地震を、東から、東海地震、東南海地震、南海地震と呼ばれています。（図①）

図①

南海トラフで発生する巨大地震は、今まで90年から150年の間隔で発生していたことが確認されています。過去には3か所の想定震源地でまとめて発生するものもありましたが、短期的に連動して起きているものも多いという特徴があります。なお、東海地震に関しては、最後に発生してから150年以上が経過しているため、いつ地震が起きても不思議ではないといわれています。（図②）

館内スタッフによるガイドでは、「南海トラフ地震が東南海地震、南海地震しか発生しなかった場合は、遅れて東海地震も発生するかもしれないので、東日本側から食料等の調達ができなくなる。」という話もあり、改めて自分自身の防災対策が必要だと感じました。

図②




また、毎年1月に地震調査研究推進本部が南海トラフ巨大地震の発生確率を発表しているそうです。令和6年1月時点での今後の発生確率は以下の通りになっています。（図③）

図③　南海トラフ巨大地震の発生確率
（令和6年1月15日　地震調査研究推進本部より公表）

10年以内　30%程度
30年以内　**70～80%程度**
50年以内　**90%程度もしくはそれ以上**

## ダイナキューブ 「津波災害体感シアター」

施設見学の途中で、津波・高潮ステーションの目玉であるダイナキューブ（津波災害体感シアター）で映像を見ました。前面、左右側面、床面の4面に、ひとつながりの映像が映し出され、床面振動音響スピーカーによる音響演出がダイナミック感をさらに高め、大迫力の中で地震発生から津波が迫ってくる様子を体感しました。

## 大きな災害があったことを忘れないために・・・

施設の中には、三大台風（室戸台風、ジェーン台風、第2室戸台風）による高潮被害写真や水没をしたまちを再現したジオラマなども展示されていました。大型台風による高潮被害により多くの方の生命やくらしが奪われたという話がありました。これらの教訓から、大阪府は高潮に備えて様々な防災施設が整備されるようになったことを学びました。

また、**大きな津波災害を経験した先人たちが、私たちへ教訓を残してくれている**という話もありました。**地震による火災が多発して水の上なら安心だと思い、小船や川岸で避難していた人が津波災害の被害にあったこと（大地震両川口津浪記※大正区）**や、**過去の津波被害の教訓を受け継いで神社の境内に避難し、けが人を出さなかったこと（擁護璽［ようごじ］※堺市大浜公園）**を、長い年月が経った現代でも活かすことができるように石碑として残していることを知りました。

## 学びのサロン

最後に、学びのサロンにて災害があった時の各自の防災対策について、**家庭での備蓄品の準備、非常持ち出し袋の必要性、事前に津波避難場所を確認しておく**ことなどを学びました。

また、**出かけている時に津波の危険性に遭遇した時は、「津波避難ビル」と書かれた建物の3階以上へ避難する**という説明もありました。

## 研修を終えて・・・

本校の周りは海抜がマイナスとなっていることから、津波浸水の恐ろしさについて改めて考えさせられました。ガイドから「1600年前の西淀川区付近は海でした。」という説明があったので、液状化現象の懸念もあります。私たちに必要なことは、一人ひとりが防災に関して向き合い、あらゆる災害の想定をすることや、想定外なことが起きた場合にどうすればよいかをあらかじめ話し合うことではないかと思います。

2学期は9月に火災避難訓練、10月に地震津波避難訓練があります。引き続きよろしくお願いいたします。